

磐田市観光協会のご案内

磐田市の観光情報を発信しています。

市内各所観光案内、物産の紹介、三古跡御朱印、しっぺいグッズの販売しています。特設ページの「徳川家康ゆかりの地いわた」では徳川家康公にまつわるスポットやイベントを紹介中!

特設ページ



磐田TV



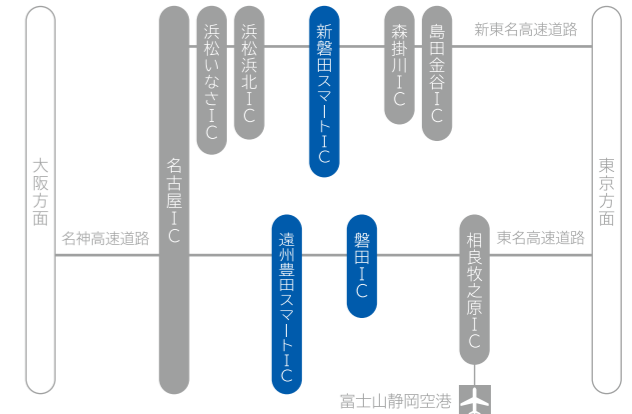
Movie

★ 動画で見よう!

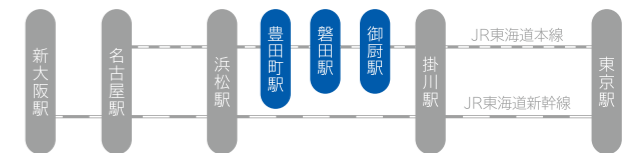
市内のゆかりの地★を紹介した動画を磐田市公式YouTubeチャンネル「磐田TV」にて公開中!

磐田市までのアクセス

お車でお越しの場合



電車でお越しの場合



磐田市経済観光課 TEL 438-8650 静岡県磐田市国府台3-1
 TEL 0538-37-4819 Web https://www.city.iwata.shizuoka.jp
 磐田市観光協会 TEL 438-0078 静岡県磐田市中泉1-1-5
 TEL 0538-33-1222 Web https://kanko-iwata.jp



かつてこの地を治めていた句坂氏によって築かれた城です。武田信玄が遠江に侵攻した際攻め落とされ武田軍の支配下に置かれます。句坂城は武田軍による二俣攻めの際に、掛川と浜松を分断させる大きな役割を担っていたと考えられています。現在遺構は残っておらず、正確な場所もわかっていませんが、句坂城の跡には歴史を伝える記念碑が建てられています。

- 〒438-0004 磐田市句坂中942-4
- JR磐田駅より遠鉄バス「ららぽーと磐田/二俣山東行き」火ノ見下車、徒歩10分



標高136mの社山に築かれた平山城です。16世紀初頭には斯波(しば)氏と今川氏の抗争の場となり、のちに今川氏の支配下に置かれました。桶狭間の戦いで今川氏が敗れ、勢力が弱まった後は徳川氏の支配下に移りましたが、元龜3年(1572)、武田氏の遠江侵入により、徳川氏と武田氏による抗争の場となりました。城跡には曲輪、堀切、土塁などの遺構が残されています。

- 〒438-0108 磐田市社山471-2、472
- JR磐田駅より遠鉄バス「二俣山東行き」慈眼寺入口下車、徒歩約25分で山頂登り口、そこから約15分で山頂



家康は、永禄12年(1569)から城之崎(現城山球場)に城を築き始めましたが、東から攻めてくる武田軍に対し、天竜川を背にすることを戦略上不利と考え、翌年には築城途中で造営を中止し、浜松城に本拠を移したといわれています。現在城之崎城跡には土塁や空堀が一部残っています。

- 〒438-0086 磐田市見付190 城山球場
- JR磐田駅より 遠鉄バス「中ノ町・磐田営業所方面行き」見付下車、徒歩6分



室町時代の遠江守護の拠点となった城です。その後も見付を支配する城館として機能しましたが、徳川氏と武田氏の戦いの中、永禄12年(1569)に廃城となりました。城の跡地は大見寺に寄進され、境内には土塁が残っています。

- 〒438-0086 磐田市見付2510-1
- JR磐田駅より遠鉄バス「磐田市立病院方面行き」二番町下車、徒歩2分



家康の家臣である平野重定が、「農民福利の基盤は水利の安定にあり」として13kmの水路を開削したのが起源です。現在も農業用水として使用されており、令和4年10月にはかんがい農業の発展に貢献した施設として『世界かんがい施設遺産』として認定されました。当初の取水口の場所には碑があります。

- 438-0006 磐田市寺谷86
- JR磐田駅より遠鉄バス「ららぽーと磐田/二俣山東行き」寺谷下車、徒歩1分



市内の中泉(御殿)地内に小笠寺三仞坊という寺院があり、この寺院は家康の信仰が厚く天正年間に家康の御殿造営の際、家康の命により寺院を移転し、この時に家康がソテテを寄進したと伝えられます。その後、昭和17年に三仞坊が七軒町の大乗院と合併することとなった時、磐田町役場(現磐田市役所)の敷地内にソテテが寄贈されました。

- 〒438-8650 磐田市国府台3-1 磐田市役所
- JR磐田駅より遠鉄バス「ららぽーと磐田/二俣山東行き」磐田市役所下車、徒歩3分



西暦651年創建とされ、式内社である島名神社ともいわれています。鎌田御厨の総鎮守として信仰を集めました。家康が駿府(現静岡市)に在城の際には武田勢との戦いの影響で焼き討ちにあったため、100石の御朱印と武具・鏡を賜り、現在でも社宝として伝わっています。

- 〒438-0038 磐田市鎌田2262
- JR御厨駅より徒歩8分



「東海の苔寺」と呼ばれるお寺で、奈良時代に創建されたといわれています。元龜3年(1572)に武田軍により焼き討ちにあいましたが、家康が焼失を惜しみ、寄進したことから復興しました。寛永12年(1635)には三代将軍の徳川家光より135石の朱印を与えます。

- 〒438-0038 磐田市鎌田2065-1
- JR御厨駅より徒歩8分



永禄5年(1562)創建。開山は梅翁和尚。その頃、御殿の造営のため浜松城から磐田に往來していた家康は、梅翁和尚に帰依し本堂庫裡等を寄進し、葵の御紋を許されました。そして家康より大池中泉寺の号を賜ったのがお寺の起源です。

- 〒438-0018 磐田市中泉743-1
- JR磐田駅より徒歩3分



天正元年(1573)秋鹿(あいか)直朝は御殿にあった屋敷地を家康に献上し、この地へ移り住んだ。現在、秋鹿邸の跡地の一部が中泉歴史公園となっており、扇子池や樹齢500~600年の大楠など当時からの面影が残っている。

- 〒438-0078 磐田市中泉1335-167
- JR磐田駅より徒歩10分



家康が好んだと伝わる「鷹狩り」をするために度々訪れた。当時は、磐田駅南口付近まで広がっていたが、江戸時代を通して埋め立てが進んだ。現在、池の周りは1.3kmのウォーキングコースや野鳥観察施設が整備され、散策を楽しむことができる。

- 〒437-1211 磐田市大原
- JR磐田駅より遠鉄バス「福田豊浜方面行き」静岡産業大学入口下車、徒歩9分



元龜年間(1570-72)の頃、家康が数人の家来を連れて歩いていたところ、武田軍に出会い、近くの白羽神社の西にあった森の中へ隠れ、神社に「無事に逃げられますように」と祈り、無事に逃げる事ができたといわれている。

- 〒438-0235 磐田市白羽198
- JR浜松駅より遠鉄バス「掛塚行き」掛塚下車、徒歩5分

History 家康公と磐田の歴史		
年表 Timeline		
1542	家康誕生	三河国松平家の嫡男として生まれる。
1549	人質となる	今川氏の人質として駿府へ送られる。
1557	婚姻	今川義元の姪である築山殿と婚姻。
1560	桶狭間の戦い	織田信長が今川の本陣に急襲、義元が討たれる。
1569	城之崎城築城	家康は城之崎(城山球場周辺)に城を築き始めたが翌年造営を中止。
1572	三ヶ野坂の戦い	本田忠勝は三ヶ野の大日堂の物見の松から偵察、武田方の先鋒隊と合戦。
一言坂の戦い	三ヶ野坂の戦いで撤退したものの一言坂で追いつかれ激戦になる。	天下三名槍の1つ『蜻蛉切』を愛用した本多忠勝の奮戦により武田軍を退けた。
信玄の近習が木札に「家康に過ぎたものは二つあり、唐の頭に本多平八」と書いて立てたといわれる。		
三方ヶ原の戦い	三方ヶ原にて、武田軍を迎え撃つが、大敗。	
酒井の太鼓	戦いに敗れ浜松城に逃げ帰る。城門を開け、かがり火を焚かせ、酒井忠次が櫓門の太鼓を打ち鳴らしたため策略を警戒した武田軍が浜松城を離れる。	
1575	長篠の戦い	織田信長・徳川家康連合軍が武田勝頼軍を破る。
1579	妻子死去	信長の命により、妻築山殿を殺害。長男信康が自決する。
1582	本能寺の変	明智光秀により織田信長が討たれる。
家康は堺に滞在していて護衛が少数であることから狼狽し、自決しようとしたが、本多忠勝の説得で留まる。		
その後、伊賀国の山を越えて三河まで逃げ延びる。(伊賀越え)		
1584	中泉御殿築く	家臣の伊奈忠次に命じて御殿を築きはじめる。敷地は約一疇坪。
敷地の北側に土塁と水堀を築き、南側は湿地に臨む要害の地であった。		
1586	駿府城へ移る	浜松城から駿府城へ移る。
1587	宣光寺の釣鐘	地藏菩薩のため家康が梵鐘を寄進した。「大担越 源家康」の銘文が刻まれている。
1590	江戸へ移封	豊臣秀吉の命により、江戸城を居城とする。
1600	関ヶ原の戦い	家康の東軍が石田三成ら西軍を破る。
1601	伝馬朱印状発行	徳川家から伝馬朱印状が発行され、見付宿が正式な宿場として認められる。
1603	征夷大將軍となる	家康は朝廷から征夷大將軍に任じられ、江戸幕府を開く。
1616	家康死去	家康享年75歳でこの世を去る。

Special

見つけられるかな？
タクシー・バス停ラッピング

市内にそれぞれ1箇所・1台しかないレアなラッピング! しゃべいと徳川家康がコラボしたイラストがとってめかわいい♪ 見つけたらいいことあるかも？



◆販売価格 1枚 300円(税込)

◆販売場所 とよおか採れたて元氣村 磐田市駅前観光案内所

Special

三古跡御朱印

神社や寺院の御朱印のように、旅の思い出に手に入れることが出来ます。現在、社山城跡、中泉御殿跡、城之崎城跡の3つの御城で販売中! 旅の思い出に是非ゲットしてください。

武將紹介

磐田で活躍した武將たち

徳川 家康 [1542年~1616年]

織田信長、豊臣秀吉とともに戦国三英傑と言われる人物。力ある武將たちとの戦を勝ち抜き征夷大將軍に昇り詰め、後に約260年続く江戸幕府の礎を築きました。磐田市にもたくさん家康まつわるエピソードが残っています。

酒井 忠次 [1527年~1596年]

本多忠勝・榊原康政・井伊直政とともに徳川四天王と言われる人物。徳川家康が幼いころから仕え、家康が天下統一に向け立ち上がった初期の頃から戦功をあげ家康を支えました。戦だけでなく政治的手腕にも優れていたといわれています。

本多 忠勝 (通称・平八郎) [1548年~1610年]

徳川四天王の1人。生涯57回もの戦を経験し傷一つ負わなかったという伝説が残っています。一言坂の戦いの際には敵から「家康に過ぎたものは二つあり、唐の頭に本多平八(忠勝)」と称賞されたそうです。

Tour

ふれあいガイドの会が案内する

見付宿ミニガイドウォークラリー

にご参加ください。

開催日時 毎月第3土曜日 午前10時~ ※小雨決行

集合場所 いこい茶屋

参加費 無料

その他 詳細は、磐田市観光協会HPでご確認ください

問合せ 磐田市観光協会 TEL:0538-33-1222





元龜3年(1572)に武田軍は木原(袋井市)、西島(磐田市)に数万の軍を敷き、三ヶ野まで偵察に来た3千の徳川軍を攻撃しました。大日堂には偵察に来た本多忠勝が木原に陣を敷く武田軍を偵察したといわれる「物見の松」がありました。

- 〒438-0027 磐田市三ヶ野1226-1
- JR磐田駅より遠鉄バス「中ノ町・磐田営業所方面行き」磐田営業所下車、徒歩15分



一里塚は家康が、江戸の日本橋を起点とする全国の街道沿いに1里ごとに築かせたものです。阿多古山一里塚は東海道を挟んで対になる状態で残っており、旧見付宿の街並みを見下ろすことができます。市内にはこのほかに宮之一色にも一里塚が築かれました。

- 〒438-0086 磐田市見付597-2
- JR磐田駅より遠鉄バス「中ノ町・磐田営業所方面行き」見付下車、徒歩5分



梵鐘(ぼんしょう)は、池ノ間(鐘の胴部)に陰刻された銘文から、家康が施主となり、天正15年(1587)に戦死した多くの町民のために冥福を祈って寄進されたものであることがわかります。当時は家康によって中泉御殿が造営され、遠江支配の関係から宣光寺へこの梵鐘を寄進したものと考えられます。

- 〒438-0086 磐田市見付1340-1
- JR磐田駅より遠鉄バス「磐田市立病院方面行き」旧見付学校下車、徒歩5分



元龜3年(1572)に武田信玄は遠江へ侵攻し、家康と三ヶ野原で戦を交えました。この戦いで徳川軍は敗北し、浜松城まで逃げ帰りました。武田方は徳川方を追走し、城門まで迫ってきました。浜松城は城門を開き、酒井忠次によって櫓門の太鼓が高々と打ち鳴らされ、徳川方の策略があると案じた武田方は退却したとされています。

- 〒438-0086 磐田市見付2452
- JR磐田駅より遠鉄バス「磐田市立病院方面行き」旧見付学校下車、徒歩1分



家康は、天正6年(1578)ごろに府八幡宮の神主、秋鹿(あいか)氏の屋敷跡に小堡(小さな岩)を設けました。その後、家康の命を受けた伊奈忠次により天正12~15年ごろに御殿を築きました。御殿は寛文10年(1670)に廃止され、裏門は西願寺に移築されたと伝えられます。この裏門は、主要な柱間の距離約9尺6寸(約2.9メートル)を測る1間1戸の裏門。

- 〒438-0078 磐市中泉254-1
- JR磐田駅より徒歩10分



家康が旅行や外出の際の宿泊・休憩施設として利用した中泉御殿は寛文10年(1670)に廃止され、表門は西光寺へ移築されたと伝えられます。この門は3間1戸の薬匠門で、主要な柱間の距離は約11尺4寸(約3.45メートル)で木鼻や发型などに工夫を凝らしており、御殿の表門にふさわしい門といえます。

- 〒438-0086 磐田市見付3353-1
- JR磐田駅より遠鉄バス「ららぽーと磐田/二俣山東行き」「磐田市立病院方面行き」加茂川下車または「中ノ町・磐田営業所方面行き」新加茂川橋下車、徒歩3分



元龜3年(1572)に三ヶ野で武田軍との戦いに敗れた徳川軍は浜松城へ退却する途中、一言坂で追いつかれ激しい戦いが行われました。しんがりを務めた本多忠勝が獅子奮迅の活躍をし、家康を無事浜松城まで逃がしたことで知られています。

- 〒438-0811 磐田市一言2918-2地先 県道脇
- JR磐田駅より遠鉄バス「浜松駅方面行き」磐田西高下車、徒歩17分



池田の渡船は中世から行われていたようです。武田軍に追われていた家康が、危急を救ってくれた恩賞として、天正元年(1573)に池田船方衆に朱印状を下し天竜川における渡船権を与えました。

- 〒438-0805 磐田市池田783-12地先
- JR磐田駅より遠鉄バス「浜松駅方面行き」長森下車、徒歩12分

※ 近隣に池田の渡しを歴史を紹介する「池田の渡し歴史風景館」がある。
〒438-0805 磐田市池田300-3



中泉御殿は、将軍の旅行や外出の際の宿泊・休憩施設として全国に90箇所ほど設けられた御殿のひとつです。もともとは軍事的な施設で、関ヶ原の戦いの際に家康は前線の勝利の知らせを受けてここから出陣したと伝えられています。また、趣味の鷹狩りに行く際にも度々御殿を利用していました。

- 〒438-0078 磐市中泉2270-17
- JR磐田駅より徒歩3分



遠江国司であった桜井王が国府の守護として勤請したと伝えられています。境内の多くは江戸時代に建てられたものです。神主をつとめた秋鹿氏15代直朝が家康に屋敷等を献上し中泉御殿が築かれました。徳川家にとって縁起の良い地として徳川秀忠が鳥居を、その末娘の和子(まさこ)が本殿を寄進したといわれています。

- 〒438-0078 磐市中泉112-1
- JR磐田駅より遠鉄バス「ららぽーと磐田/二俣山東行きほか」磐田市役所下車、徒歩3分



一言坂の戦いで劣勢となった家康が、一生に一度一言だけ願いをかなえてくれるという観音様へ「この戦いに勝たせてほしい」とお願いしたことで無事に浜松城に撤退することができたといわれています。この観音様は「一言観音」と呼ばれ、現在は智恩斎山門脇の堂宇で祀られています。

- 〒438-0811 磐田市一言797
- JR磐田駅より遠鉄バス「浜松駅方面行き」下万能下車、徒歩18分



元龜3年(1572)に家康は、一言坂で武田軍との戦いに敗れ、退却する時に、上万能の沼地にたくさんの提灯を掲げたり、腰まで潜る深田に橋をかけたりして、武田軍を迎え撃ち敗退させたといわれています。村人たちはその時の多くの戦死者を弔いそこを挑燈野と名付けたとされます。

- 〒438-0817 磐田市上万能262-1 オーギャ駐車場
- JR磐田駅より遠鉄バス「浜松駅方面行き」JA豊田支店下車、徒歩7分